国際活動

スペイン国土地理院との協力文書署名式

JICA課題別研修「国家基準点管理の効率化と利活用」コースにおける実習の様子

途上国への技術協力に向けた意見交換

国連ベクトルタイルツールキットの技術移転

測量技術で国際社会に貢献します

国連総会で採択された地球の正確な形とその変化を表す「地球規模の測地基準座標系（GGRF）」の普及や地理空間情報による価値創出を通じた国際的パートナーシップの推進に取り組み、SDGs（持続可能な開発目標）の達成等、国連の活動に貢献しています。

これまでの経験や培った技術を活かし、開発途上国への技術協力や、南極地域観測への貢献等、国際的な舞台で様々な活動に取り組んでいます。

UN-GGIM-AP測地基準座標系作業部会長としての発表

国連等の枠組における貢献

国連経済社会理事会の「地球規模の地理空間情報管理に関する国連専門家委員会」（UN-GGIM）等に参画し、地理空間情報に関する議論に貢献しています。

UN-GGIM の災害のための地理空間情報及びサービスに関する作業部会共同議長や測地小委員会メンバー、「国連地球規模の地理空間情報管理に関するアジア太平洋地域委員会」（UN-GGIM-AP）の副会長を務めるなど、主導的役割を果たしています。

国連本部で開催されたUN-GGIM会合における日本代表団としての発言

開発途上国への技術協力

国際協力機構（JICA）と連携し、電子基準点網の整備・高度運用支援をはじめとする開発途上国の測量・地図整備技術向上のための技術協力を行っています。

1959 年から 60 年以上にわたり、1000 人を超える研修員が国土地理院で研修を受け、1964 年以降延べ 850 人以上の国土地理院職員が専門家として海外の地理空間情報当局に派遣されました。

開発途上国への技術協力に係る現地調査

南極観測

関係各省庁が連携して進める南極地域観測事業において、1956 年の第 1 次隊から毎次の観測隊に隊員を派遣しています。

これまで整備した測地情報と地形情報は、観測隊の安全な野外活動及び研究活動を進めるための基盤として利用されてきました。

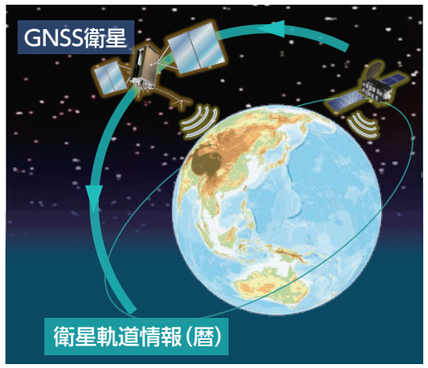
昭和基地のある東オングル島では、国際 GNSS 事業（IGS）の一環として GNSS 連続観測を行っています。

氷に覆われていない露岩での GNSS 測量（第 64 次隊撮影）

column

日本初！ ＩＧＳ解析センターに認定

GNSS は衛星の軌道情報（暦：れき）を基にして地上の位置決定を行うシステムです。高精度な位置決定には、高精度な暦（精密暦：せいみつれき）が必要不可欠です。現在、最も高精度とされている精密暦は、国際 GNSS 事業（IGS）が「IGS 解析センター」から提出された精密暦を統合処理することで算出されます。

IGS 解析センターは、IGS の認定を受けた世界各地の測量・宇宙関係機関で構成されます。国土地理院は JAXA と連携し、独自の方法で精密暦を算出する方法を確立し、2023 年 12 月に日本で初めて IGS 解析センターに認定されました。

これにより IGS を通じた国際貢献を果たすとともに、高精度測位に必要となる基盤の整備に貢献しています。